

こうりん



盂蘭盆法要 今年も大勢の方がお詣りになりました。

内 容

- ・ 秋季彼岸法要のご案内
- ・ 無量寺混声合唱団へのお誘い
- ・ 極楽と音楽
- ・ 平成十九年 年回繰出し
- ・ 作ってみよう精進料理
- ・ お知らせ

今年の夏は大変暑い夏でした。熱中症で倒れる人も多くあり、亡くなられた方まで出ました。初盆を迎えられたあるお宅でこんなお話を聞きました。「和尚さんが勧められるように手作りの祭壇を作って主人の母を迎えました。最初は難しいと思っていましたが、作り始めると主人の兄弟も手伝ってくれて、とてもよかったです。その最中亡き母がずっと見てくれていたような気がしました。自分達の手で作ってほんとうによかったです。」お盆も大切な方が帰って来られるのを心待ちにして、準備をする課程が大切です。同じ親御さんや、大切な人をみんなて迎えてこそ、本当の喜びになるのではないのでしょうか。

檀信徒各位

秋季彼岸法要御案内

聖名、酷暑の日々もようやく終わり、朝夕に秋の気配を感じる今日この頃です。

早いもので今月は秋のお彼岸です。恒例によりまして下記の通り彼岸法要を勤めます。御多忙の処とは存じますが、お繰り合わせ、御参詣下さいますよう御案内申し上げます。

合掌

平成 19 年 9 月上浣

無量寺 住職 堤 俊翁 拝

※日 時 9 月 23 日 (秋分の日)

午後 1 時より御回向

午後 2 時 30 分より法話と音楽法要

※御回向料 位牌型に回向される戒名と施主名を記入し
(複数記入されても結構です。)

1 霊につき金 1,000 円以上添えてご志納下さい。

※お供米、お供米料 お供米袋に入れて随意ご奉納下さい。

本尊様のお供え、お花代等にさせて戴きます。

法話と音楽法要 午後 2 時 30 分より

※法 話 音楽と念佛 住職

※音楽法要

第 1 部 新しい音楽法要 カーラビンカ

わが身浄まり 一心にうやまって 懺悔のころ

み法にあう歓び ともに仏道を成ぜん みほとけを送る

第 2 部 歌で振り返る人生

ゆりかごの歌 シャボン玉 赤とんぼ 落葉松

この道 千の風になって

KALAVINKA(カーラビンカ) 無量寺混声合唱団

団員募集のお知らせ

檀信徒各位

無量寺 住職 堤 俊翁

昨年の秋の彼岸法要の折、音楽法要を行いました。浄土宗のお勤め（読経）の歌を歌い、ご参詣の皆さんと一緒にうたうことができ、とてもなごんだ雰囲気の法要を勤めることができました。

その折、また聴かせてほしいというご希望の声もいただいていたました。

その後、福岡や佐賀の浄土宗寺院でもこの音楽法要をさせていただき、続けていきたいと思うようになりました。そこで、今年の秋の彼岸にも音楽法要を行いたいと思っています。

就きましては、檀信徒のみなさんにもこの法要にもっと加わっていただきたいと思い、この度無量寺混声合唱団（カーラビンカ）を結成する運びとなりました。

(この会の目的)

- 1、無量寺本尊阿弥陀如来さまに、音楽法要を始めとして、仏教聖歌を中心に、美しい歌声を奉納することを、主目的とする。(毎年の彼岸法要などのへの出演)
- 2、団員各自が自ら持って生まれた天声を生かし、且つ他の団員との融和をはかり、共に生かされていることの喜びを分かち合う。音楽を通して人格を高めていく。

以上のような合唱団を作りたいと考えています。

檀信徒の方であればどなたでも入団していただけます。

(初心者の方歓迎) 専門の講師に指導して頂きます。

男性にも大いに参加して頂きたいと思っています。

練習日 毎月 2 回 第 1、第 3 土曜日 午前 10 時より 11 時 30 分まで
場 所 無量寺ホール
会 費 月 1,000 円 (講師謝礼を含む、楽譜代別途)

募集人員 50 名程

※ 参加申込、お問い合わせは無量寺まで

カーラビンカ (KALAVINKA) とは
お経に迦陵頻伽 (かりょうびんが) として出ています。
インドの神話に登場する、美声で鳴く鳥のことです。
「妙音鳥」「好声鳥」と意識されることもあるそうです。
極楽浄土で法を説く鳥とされ、美声ゆえに、
「仏の声」とも言われます。
卵の中にいるうちから、鳴き出すともいわれ、
その姿は、人頭鳥身、美術品としては上半身が翼を持つ菩提形、
下半身は鳥の姿とされます。
お経の中にも、「極楽より舞い降りたる鳥」として
表現されています。





説相箱

音楽と極楽

昨今、日本中あるいは、世界中でコンサートが大流行りである。クラシックのコンサート、ロック、ジャズ、ポップス、民謡に演歌等々ジャンルを上げたらきりが無い。また、ジャンルを超えて、音楽家達が何かを伝えようとステージに上がっている。テレビや、ラジオ CD に DVD と音楽を楽しむスタイルは実に多彩である。音響機器も手軽で性能がよいものが多くあり、最近では携帯電話やヘッドホンステレオのようにどこでも自由に聞くことが出来るものが人気を呼んでいる。

では、どうしてこのように人は音楽を求めているのであろうか？

現代ばかりでなく、人類の歴史は音楽とともに進んできたといえるだろう。お祭りや人の集まりで、リズムを刻み、歌を歌って神様や仏様と一体になろうとしてきたのではないだろうか？

よく、音楽は国境を越えて通じ合うという。言葉や風習はちがっても、音や身体をゆらすリズムは共通なのである。

極楽は私たちが暮らしている地上と違って、何の差別もない世界という。

この世は娑婆世界といって、修行の場所である。

それゆえ、生きる為に衣食住を満たし、家族を養わなければならぬ。人間関係に気を使い、生活をするのは大変な労苦を必要とする。

今の世界では、聞きたくない騒音もたくさん聞かねばならないし、心を乱すことも多く起きている。

そんな生活の中で、心地よい音を聞いて、心を落ち着かせる。素晴らしい演奏に感動する。私たちが音楽を必要とするのはごく自然な欲求なのであろう。

私たちの心と共鳴する音楽、あるいは音、それは私たちの心そのものではないだろうか。

生き物は水を得ていのちを保っている、ように思えるのだが、実際は水が命そのものである。

それと同じように、心は音によって変化する。というより実体のないわれわれの生命は音と振動そのものなのだと思う。

極楽には種々の宝石からできていた樹々が生い茂り、空には宝石や鈴をあしらった網目のベールが幾重にもたなびいている。「阿弥陀経」によれば極楽には微風(み

ふう、そよ風)が吹き、その風が樹々の間を通り抜け、空を飾るベールをはためかせる時に、微妙の音(みみょうのおと)、すなわち心地よい調べを奏でていくという。微風が吹き、微妙の音がかたなられ、それを聴く極楽の住人は幸せや安らぎを覚え、肉体的にも、精神的にも、苦痛を感じるようなことは一切ないのである。

微風に揺れる樹々を見ては安らぎを感じ、そのざわめきすら、妙なる調べとなつて聞こえて心が和み、やがて幸せな気分を満たされるのである。

このような、極楽の風や音楽はこの世にも存在するのではないだろうか。人の心を落ち着かせ、安らぎを感じさせる風、リズムもたくさんある。

赤ん坊は母親の腕の中で、子守唄を聴きながら、眠りにつく、おかあさんは身体を揺すりながら、やさしいまなざしを赤ん坊にそそいでいる。絶対の安心感に包まれながら、眠りにつく。

浜辺で打ち寄せる波の音を聞いていると、安らいだ気分になるのはなぜだろうか。寄せてはひいていく波に合わせて深呼吸をすると、身体が軽くなるのはどうしてだろうか。

街の暮らしは人工的な音に満ちている。道路を歩き交う自動車の騒音、振動、電磁波も無数に飛び交い私たちの脳を振動させ、何か自然の状態とは違うものになっているような気がする。

不自然な私たちの生活、違和感を覚える人たちは、音楽や音によって、また自然の風によって自分を取り戻そうとしているのかも知れない。

一週忌	平成十八年
三回忌	平成十七年
七回忌	平成十三年
十三回忌	平成七年
十七回忌	平成三年
二十五回忌	昭和五十八年
三十三回忌	昭和五十年
五十回忌	昭和三十三年

平成十九年年回繰出し



年回供養は済みましたか？

お寺では、本堂に詳細を掲示しておりますが、ご法事のお申し出があるまで、お待ちしております。先祖供養は施主並びに、ご親族、関係者のお志が大切と存じております。

もし、お忘れの場合等ありましたら、左記の繰出し表をご参考にされて、思い立たれてはいかがでしょうかでしょう。

作ってみよう精進料理

{浄土宗かるな} より

秋野菜の田楽



材 料	
胡桃味噌	白味噌 200g
	信州味噌 26g
	砂糖 26g
	酒 20cc
	胡桃 20g
長なす 2本	
真菰だけ 2本	
松茸 2本	
豆腐 3分の2丁	

- 作り方
- 胡桃味噌を作る。鍋に白味噌、信州味噌、砂糖、酒を入れて、火にかけてながら練る。胡桃 3分の1 を残してすり鉢で油が出るまですり、残りは刻む。すった胡桃、刻んだ胡桃を鍋に入れ和える。
 - 長なすは油で軽く揚げる。真菰だけ、水切りした豆腐、松茸をトースターで焼き、火を通しておく。
 - 2 に胡桃味噌をのせ、再び味噌に焼き色がつくまでトースターで焼く。
 - 器に盛り合わせ、酢みょうが（酢を入れた湯で茹で、塩を少々ふる。冷めたら酢水に半日から一日漬ける）を添える。

お願い

墓地へご参詣の皆様へ 枯れたお花などは墓地奥の焼却炉へ、塵かごがありますのでそこに入れて下さい。

納骨堂へご参詣の皆様へ お供えはお持ち帰り下さい。

水くみ場にゴミを捨てないで下さい。



陽光院 吉武 清子 殿

院号授与式

だるまさん

年間 5 回の法要（御忌、彼岸、施餓鬼、十夜）の法話、念佛講、14 日会等に参加された方に渡しています。100 だるま以上集められた方には無条件で、お戒名に院号をお贈りします。お札に名前を書いて保管しておいて下さい。



念佛講 法要のない月の 25 日頃（午前 11 時より）に勤め、念佛、法話を行っています。

14 日会 毎月 14 日（8 月は休み）の午後 7 時よりお勤め、念佛、法話を行っています。



使用済みのカードはありませんか？

使用済みのプリペイドカード（テレフォンカード、ハイウェイカード、バスカード、JRカードなど）がありましたら、お寺へ御持参下さい。

独立行政法人国際協力機構（JICA）を通じて、世界中の子供達の医薬品や医療器具などを購入するための資金を得る活動に役立てていただきます。

世界中のカード収集家に販売してその収益が当てられます。

写真や絵など図柄が美しいものが、喜ばれます。

香林山 冷智院 無量寺

機関誌 こうりん

第 49 号 平成 19 年 9 月 1 日発行

〒 830-0044 福岡県久留米市本町 8-4

TEL 0942-32-3010 FA0942-32-2701

郵便振替口座 01750-7-16114

URL <http://www.muryoji.net>

E-mail info@muryoji.net